

## 経営におけるAI活用についての弊社の考え方

これからの企業経営において、AIの果たす役割はどんどん増えていくと考えています。その理由としては、企業を取り巻く環境は変化の度合いや振れ幅がどんどん増えていくことはあっても、収束したり落ち着いていくとは考えにくいからです。

ビジネス戦略において、既に多くの企業で実用化されはじめているAIの活用を各製品やサービスにインプリメントするところから、まだ黎明期である各組織や全社レベルでの経営判断に活用するケースも増えてくるかもしれません。

AIの特長は申し上げる必要もないのですが、人間には到底不可能な大量のデータを一度に処理し、分析や推測、判断できるところにあります。しかしながら、AIは相関関係を求めていくことしかできないため、推測や分析に必要なもう一つの軸である因果関係に関して処理することはできません。こんな当たり前のことを、ここで申し上げているのは、どの企業も同じようなデータを用いて、一定レベル以上のAIエンジンを使うことによって同じような経営が出来るかもしれない = AI活用において競争優位に立つのが難しいかもしれないということです。

経営におけるAI活用を成功に導くためには、大量のデータを用意し、因果関係を意識しながら、データセットを作り、AIで活用していくことが肝要だと思います。そのためには、データサイエンティストの養成も不可欠ですが、ラインの業務管理者、経営層や企画部門がいかにシナリオ力を高めていくかが、経営におけるAI活用の成功の肝だと考えます。

話は変わりますが、リスクマネジメントは、時代が進めば進むほど有効なビジネスツールとされています。

それは、時代が進むとともに、新しいリスクがどんどん増え、そのリスクへの対応策、つまりコントロールの種類やレベルが向上するからです。

そして、リスクマネジメントは、前述のAI同様、リスクシナリオが最も大切な考え方であり、フレームワークと言っても過言ではありません。

私どもは、経営におけるAI活用の成功度や成熟度合は、リスクアプローチによるシナリオ力の醸成、データ集約基盤の構築と活用に尽きると考えています。

## 内部環境

### 意思決定リスク

- ・ビジネスモデル、戦略立案、経営資源配分
- ・事業投資、事業ポートフォリオなど

### 業務リスク

- ・人的資源、知財、業務効率、ブランド
- ・生産能力、SCM、チャネル、権限付与など

### 財務リスク

- ・価格関連、取引先信用、流動性

### IT

- ・完全性、可用性、セキュリティ
- ・オペレーション、インフラなど

### ガバナンス

- ・企業風土、経営方針、CSRなど



データモニタリング  
(実績値、管理会計、目標管理)

シナリオに基づくデータ整理



## AI活用



PDCA OODA

による継続評価

## GOAL

## 計画



## 経営におけるAI活用

効率化と競走優位を両立させます



データ収集基盤  
シナリオに基づくデータ活用  
最適なAIエンジンの活用  
分析・予測した結果を判断  
迅速に事業に落とし込める体制

## 外部環境

- 法令 (国内・海外)
- 政体 (国内・海外)
- マーケット
- トレンド
- 競合
- コンプライアンス (国内・海外)
- グローバル
- テクノロジー
- 金融市場 (為替・株価・債権)
- ...